

チーム医療：褥瘡回診（褥瘡対策委員会）

一関係部署一

形成外科	救命診療科
看護局	薬剤科
栄養管理科	リハビリテーション科

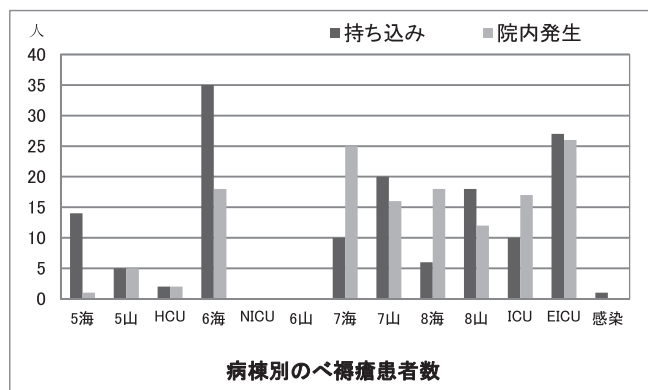
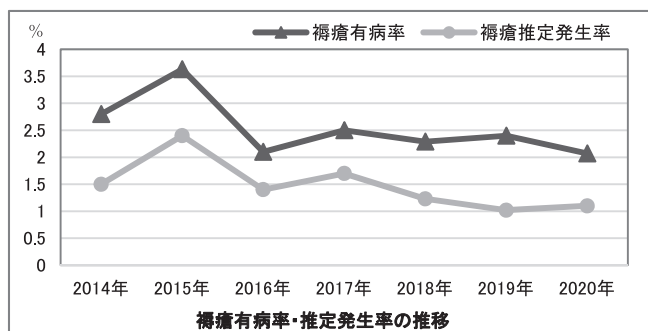
一概要一

褥瘡対策委員会のメンバー構成は医師2名、看護師6名、薬剤師3名、栄養士2名、理学療法士2名、事務職1名の多職種で構成されている。褥瘡対策委員会は2カ月に1度開催され、主に院内の褥瘡対策指針や褥瘡対策マニュアルの修正などを行っている。その他に、チーム活動として毎週火曜日の午前中に形成外科医、院内認定の褥瘡エキスパートナース、病棟リンクナース、感染管理認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師（2名は日本褥瘡学会が認定する褥瘡認定士）、栄養士からなる多職種のスタッフが協力して褥瘡回診を行っている。回診の対象となる患者は、基本的にNPUAP分類でI度以上の患者と医療機器関連圧迫創傷を発症した患者、スキントアを発症した患者である。失禁関連皮膚障害などの患者も回診で対応している。また、褥瘡のある患者は栄養状態に問題がある場合が多いため、栄養士が中心となってNSTチームとの連携を図っている。週1回の褥瘡回診までに褥瘡処置やケアで相談がある場合は、皮膚・排泄ケア認定看護師が窓口となり、緊急性を有する創傷の場合は形成外科医に相談できる体制を取っている。

一実績一

2020年度褥瘡データ

新規入院患者総数は110,156人であり、その内褥瘡回診患者数は延べ618名（うち褥瘡は321名）であった。褥瘡推定発生率は1.10%、褥瘡推定有病率は2.18%、医療機器関連圧迫創傷推定発生率は0.4%スキントア推定発生率は0.31%、その他0.75%であった。2020年度は新たに自動体位変換機能がついたエアマット4台の導入を行い、褥瘡リスクの高い病棟に配置をおこなった。導入する部署に赴き使用方法などについてレクチャーを行った。また、循環動態が不安定や安静度に制限があり体位変換が困難な患者に対して、褥瘡予防の除圧ケアを実施しやすくするために、介助用グローブの導入をおこなった。褥瘡管理登録の項目見直しなどを行った。



一今年度の成果と反省点一

全国平均値や前年度の結果と比べると褥瘡有病率は減少した。院内褥瘡推定発生率はやや微増しているが全国平均値は下回っている。院内発生した褥瘡の治癒率は19%であり、治癒することなく、地域へ褥瘡を持ち帰っている現状が継続している。地域持ち帰り褥瘡を減らすためにも褥瘡推定発生率を下げることが必要である。そのためには、病棟のリンクナースなどと連携し、褥瘡発生リスクの高い患者に対して継続的に褥瘡予防ケアなどが適切に実施できているか確認を行っていく必要がある。2020年度は医療機器関連圧迫創傷を有した患者はのべ53名、失禁やおむつ関連の皮膚炎による皮膚障害を有した患者はのべ100名と前年度よりやや増加した。

一來年度への抱負一

褥瘡推定発生率の低値維持を目指して、導入したエアマットの使用状況やマルチブローブの使用状況の確認を行っていききたい。また、院内褥瘡発生患者のデータ分析や症例検討を行い、リンクナースなどと協働して褥瘡予防ケアを継続して取り組んでいく。また、失禁やおむつ関連の皮膚炎に関連した創傷を予防するためのスキントア用品の見直しや予防ケアなどについて改善していききたい。